

第3章 区分ごとの規模の目標及び地域別の概要

1 町土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標

- (1) 計画の目標年次は平成32年とし、基準年次は平成19年とする。
- (2) 町土の利用に関して基礎的な前提となる人口については、計画の目標年次である平成32年には6,000人と想定する。
- (3) 町土の利用区分は、農用地、森林、宅地等の地目別区分及び住宅地とする。
- (4) 町土の利用区分ごとの規模の目標については、利用区分別の町土の利用の現況や面積の推移と将来人口や各種計画を参考に、利用区分別の土地面積を推計し、土地利用の実態と調整を行い定めるものとする。
- (5) 町土の利用の基本構想に基づく平成32年の利用区分ごとの規模の目標は、表のとおりである。

なお、地域別の概要も含め、以下の数値については、今後の経済社会の不確定さなどを踏まえ、弾力的に理解されるべき性格のものである。

2 地域別の概要

地域の区分は、町土における自然的、社会的、経済的及び文化条件を勘案して、長沢地区、舟形地区、富長地区、堀内地区の4地区とする。

また、地域別の土地利用の方向については、土地、水、自然などの町土資源の有限性を踏まえ、各地区の特性に応じた個性ある発展と、環境の保全・地域景観の形成等に配慮した土地利用を図るものとする。

(1) 長沢地区

この地域は本町の東部に位置し、JR陸羽東線、亀割バイパスが整備され交通利便も良く、県道56号線沿いに集落が集中し生活環境に適した地区である。

集落沿いに流れる小国川は鮎釣りの名所として有名であり、シーズン中は他県からも太公望が訪れ活気ある賑わいが見られる。

農用地は435haあり、水田、畑、樹園地として活用されている。一方、未整備である水田の圃場整備や用排水整備を積極的に進め、農地としての利用を図る。

また、起業農家を育成し、施設園芸も含めた園芸作物の振興地域としての活用を促していく。さらに、開発可能な土地については、地域振興を図りながら地域の活性化に向けた土地の利活用や環境美化・保全事業を計画的に促進する。

(2) 舟形地区

この地域は本町の中央に位置し、国道13号及び主要地方道舟形大蔵線沿いに集落があり、町の中心地区として文化・教育施設、スポーツ・保養施設、各種公園、遺跡等の公共施設が多く配置されている。また、町の東部の小高い丘に整備された若あゆ温泉は月山、葉山まで一望できる景観に優れた一帯であり、近くには県営ゴルフ場等もあり、幼児から高齢者まで多岐に利用できるレジャーランドとして親しまれている。

農用地は387haあり、小国川とその支流に沿って大部分を占め、平坦地が他地域に比べ

て多く、早くより農地開発や基盤整備が進められた地区でもある。今後は転作田や畑の整備・団地化を図り、水稻以外の農業収入の増加を目指していく。

また、高規格道尾花沢新庄道路の整備が進んでいることから、農業的土地利用との調整を図りつつ、高速交通網を活かした新たな土地利用を計画的に考え、商工業も当該地域に集中していることから、住環境を考慮に入れた企業誘致等の土地利用を進めることとする。

(3) 富長地区

この地域は本町の西南部に位置し、主要地方道舟形大蔵線、新庄・次年子村山線沿いに集落があり、水稻のほか果樹や施設園芸、花卉花木栽培も見られるなど農業就業世帯も多い。

農用地は597haあり、圃場整備等は進められてきた地域であるが、将来を展望し集落営農や担い手農家による機械の有効利用を図りながら整備を進めていく。

小国川の兩岸には鬱蒼（うっそう）と河畔林（ヤナギ・アシ・ヨシ等）が形成されており、里の川としてやわらかな景観を有している。この下流が最上川と小国川の合流地点であり、景観にも優れ地域住民の交流拠点でもある桜堤公園の有効利用を図る。

(4) 堀内地区

この地域は本町の西南部に位置し、主要地方道新庄・次年子村山線、大石田・畑線沿いに集落があり、最上川が悠々と流れる中流域で、舟運で栄えた歴史的な文化と遺産が残され、当時の面影が偲ばれる地区である。

農用地は344haあるが、西又・松橋地区の水田が未整備であり、機械化作業を前提とした圃場・用排水路整備を進める。また、畑については観光ワラビ園等の観光型農業を推進し、地域の多面的機能を充実させ、さらにグリーンツーリズムの施策を推進するなど、未開発用地も含めた有効利用を図る。

当地域は、自然資源豊かな美しい山、川に恵まれた葉山山麓に連なる地域で、貴重なブナの原生林があり、さらに生息する生物たちを観察する学習の場としての活用もなされている。このため、森林地域における無計画な伐採を防ぎ、積極的に環境保全に努めることとする。

町土地利用の目標

(単位：ha・%)

区分	年次	平成19年 (基準年次)		平成27年			平成32年		
		面積	構成比	面積	構成比	増減率 27/19	面積	構成比	増減率 32/27
農用地		1,639	13.8	1,610	13.5	△ 1.8	1,586	13.3	△ 1.5
農地		1,629	13.7	1,605	13.5	△ 1.5	1,581	13.3	△ 1.5
採草放牧地		10	0.1	5	0.0	△ 50.0	5	0.0	0.0
森林		8,354	70.2	8,354	70.2	0.0	8,354	70.2	0.0
国有林		4,928	41.4	4,928	41.4	0.0	4,928	41.4	0.0
民有林		3,426	28.8	3,426	28.8	0.0	3,426	28.8	0.0
原野		94	0.8	94	0.8	0.0	94	0.8	0.0
水面・河川・水路		365	3.0	365	3.0	0.0	365	3.0	0.0
水面		4	0.0	4	0.0	0.0	4	0.0	0.0
河川		276	2.3	276	2.3	0.0	276	2.3	0.0
水路		85	0.7	85	0.7	0.0	85	0.7	0.0
道路		302	2.5	302	2.5	0.0	302	2.5	0.0
一般道路		192	1.6	192	1.6	0.0	192	1.6	0.0
農道		91	0.8	91	0.8	0.0	91	0.8	0.0
林道		19	0.1	19	0.1	0.0	19	0.1	0.0
宅地		137	1.2	137	1.2	0.0	137	1.2	0.0
住宅地		93	0.8	93	0.8	0.0	93	0.8	0.0
工業用地		8	0.1	8	0.1	0.0	8	0.1	0.0
その他の宅地		36	0.3	36	0.3	0.0	36	0.3	0.0
その他		1,012	8.5	1,041	8.8	2.9	1,065	9.0	2.3
合計		11,903	100.0	11,903	100.0	0.0	11,903	100.0	0.0